



## 新年のご挨拶



静岡県知事

川勝 平太

明けましておめでとうございます。

昨年4月、県では、新たな総合計画「後期アクションプラン」をスタートさせました。

日本の国土のシンボルである富士山から導かれる多様な価値に立脚し、各人が個性を発揮して、美を重んじ、和を尊び、物心ともに豊かで品格ある社会、富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくりの総仕上げを着実に進め、「県民幸福度の最大化」を目指してまいります。今、地方創生が重要な課題となっていますが、本県では、国に先駆け、大規模地震への万全の備え、防災・減災と地域成長の両立を目指す「内陸のフロンティア」を拓く取り組み、人口減少社会への挑戦、新成長産業の育成と雇用創造など、安全・安心で魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

本県は、世界遺産・富士山や、世界農業遺産の

茶草場農法、ユネスコエコパークの南アルプス、世界ジオパークを目指す伊豆半島、世界文化遺産候補の韮山反射炉など、世界水準の「場の力」に恵まれた地域です。“ふじのくに”静岡県には、こうした世界水準の「場の力」を最大限に活用し、その中心性を自覚しながら、ポスト東京時代を拓く我が国の新しい顔として、世界に飛躍していくことが大いに期待されます。

県では、2016年主要国首脳会議（サミット）の本県開催を目指しています。先進国の首脳が一堂に会する世界最高峰の会議の開催は、高い経済効果に加え、この地域の存在を未来の世代に伝える絶好の機会になるでしょう。また、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京五輪の開催に向けて、開催会場や合宿地の誘致を進めています。ロンドン五輪でのカルチュラル・オリンピアードの成功に倣い、文化的なイベントを各地で展開するなど、スポーツ振興のみならず、文化、観光、産業の幅広い分野で交流を進展させ、地域活性化につなげてまいります。結びに、今年一年間の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げまして、新年の御挨拶といたします。



沼津市長

栗原 裕康

新年明けましておめでとうございます。

昨年夏、沼津駅北口に総合コンベンション施設「プラサ ヴェルデ」がグランドオープンし、沼津の新しいにぎわいの拠点となっております。

南口では、旧西武百貨店新館によしもと劇場等がオープン、旧本館の跡地では、民間企業がピアガーデンなどのイベントを次々に開催するなど多くの来客で賑わっています。また、中央公園や狩野川の階段堤を活用した民間による様々なイベントも増加しており、週末にまち中へ行けば必ず何かやっている、という理想に近づいてきているように感じています。

そして、鉄道高架事業は、事業主体である県の方針が、当初計画の通り実施することとなりました。

私がかねがね、沼津の魅力は都会と田舎の良さを併せもった「まち」と申しておりました。今、地方創生が国政の大きな課題となっておりますが、この事は裏返せば東京を始めとする大都市圏への一極集中が進み過ぎる危機感の表れであり、人口減少時代の今日、沼津の再生を考えるにあたり、このまちの中心部に都市的魅力を再構築する為にも鉄道高架事業は不可欠と考えるのです。

さて、全国的に高齢化や少子化等を背景にペットを飼う方が増えており、ペットが私達の生活に大きな存在となっています。一方、動物愛護の精神が国民に広まっているかということ、これは残念ながら欧米並みとはとても言えません。

これからの日本では、オリンピック開催を控え世界の注目が集まる中、動物愛護が社会的テーマになる事が考えられます。

サンフロント21懇話会の皆様にもご支援いただいております、沼津市西浦地区山中に建設が予定されている、仮称「人と動物の未来センター」は、このような時代背景を先取りした民間施設ですので、動物愛護の実をあげるとともに、見学や教育視察などを通じ交流人口の拡大、にぎわいづくりにも寄与するものと期待しております。

更に、沼津が生んだ偉人、原が生誕地の白隠さんが近年国の内外で大きな注目を集めております。昨年、沼津で初めて開かれた白隠フォーラムも大変盛況でした。白隠さんを通じてのまちおこしに繋がられればと考えております。

最後になりましたが、3.11東日本大震災から今年丸4年となります。残念ながら市民の間での防災意識は薄れつつあるのではないかと感じております。「まず逃げる、そして命を守る」を基本として、出来ることから着実に防災対策を講じて参りたいと考えております。

本年一年の皆様のご健勝ご多幸を心よりお祈りし、新年のご挨拶と致します。

# われら 未年生まれ



未(ひつじ)は偶蹄目ウシ科の哺乳類。洋の東西を問わず、人とのかかわりは古くて深い。現在でも羊毛や肉(ラム、マトン)の利用を目的に中国、豪州、インドなど世界中で広く飼育されています。草食性で、性質は温和。常に群れをつくります。そのせいか、未年生まれの人は「冷静に周囲の行動を観察し、どう動くべきか考えている」とされ、「人当たりがよくで温和」です。また困っている人を見ると何とかしようと頑張り、曲がったことを許せない頑固な一面を持ち合わせています。さらに時代を先取りする才能も。羊を数えると安眠できるという都市伝説まであります。アベノミクスの真価が問われる2015年。景気が好転し、今年がサンフロント21懇話会の会員の皆様にとって良い年となりますよう祈念し、未年生まれの皆様に、新年にける思いを寄せていただきました。



沼津信用金庫  
相談役

**堀田 大洋**

昭和18年2月5日生まれ

あけましておめでとうございます。

6回目を迎えさせていただくことができましたのは、ここまで見守っていただいた多くの皆様にまずもって感謝を申し上げます。

世界各地でいろいろなことが起こっていますが、大自然、大宇宙の法則に従い受けた恩をお返しすると同時に恩送りをすべく今年1年頑張りたく思っています。



富士川まちづくり株式会社  
代表取締役社長

**伊藤 高義**

昭和18年3月17日生まれ

還暦に大病を患い、以来12年、6回目の歳男を迎えることが出来、感無量です。森羅万象に「お

蔭さまで」と手を合わせます。地方銀行の一員としての人生劇場第一幕を終え、今、第二幕、地域の活性化のために残された力を注ぎ、ご恩返ししたいと思います。そして願わくば、健康で無事な日々が過ごせればと。



学校法人加藤学園  
副理事長

**加藤 瑠美子**

昭和18年4月28日生まれ

昭和18年生まれですので今年6回目の年女となります。どなたかが、うさぎは絵になるが困ったことに羊はさまにならないとエッセイに書いておられました。絵にはならずとも私はこの干支が気に入っております。

世の中、少子化の厳しい波が押し寄せておりますが、逆境になるほど力が出て参ります。

会員の皆様におかれましても、本年がよい年になりますよう祈念申し上げます。



ライオンファイル株式会社  
代表取締役会長

**勝又 規雄**

昭和18年10月11日生まれ

あけましておめでとうございます。

富士山の世界文化遺産登録を始めとして、伊豆ジオパーク、韮山反射炉の世界遺産推挙など、東部地域の観光産業資源が一躍脚光を浴びてきました。素晴らしい静岡を海外に情報発信して積極的に誘客運動に取り組んで行きたいものです。



静岡県総合健康センター  
技監

**稲葉 やす子**

昭和30年2月1日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

皆さんにとって、大事なものは何ですか？私は健康です。「ふじ33プログラム」に多くの方に参加していただきたい。目標を持つと頑張れる。出かけることが健康づくりにつながる。仲間がいると継続できる。今年も楽しい健康づくりの輪が広がることを願っています。



静岡県田子の浦港管理事務所  
所長

**桜井 孝洋**

昭和30年4月9日生まれ

あけましておめでとうございます。

人生の節目となる還暦を迎えるにあたり、これまで支えてきていただいた周囲の方に、心から感謝申し上げます。

これからも、テニスのレベルが下がらない程度に週末は汗を流し、健康に気をつけ、退職前の1年を慎重に、穏やかに勤め上げたいと考えております。



有限会社啓伸社刑部新聞店  
代表取締役

**刑部 治**

昭和30年7月12日生まれ

あけましておめでとうございます。

今年が皆様にとって、素晴らしい一年になるよう、お祈りするとともに、ただただ甚大な被害を被る自然災害だけは、起きてくれるなど願うばかりです。

「笑う門には福来たる」今年一年、笑い続けていたいものです。

次世代の為にも、頑張っていきましょう。



静岡県沼津財務事務所  
所長

**中西 芳弘**

昭和30年4月24日生まれ

今年、還暦を迎えますが、多くの人達に支えられここまでやってこれることができました。感謝の気持ちを持ち続けて過ごしたいと思えます。

仕事では、東部の基幹事務所として、納税者の理解と信用を得られる組織であるよう努力を重ね、後進の育成にも力を注いでまいります。

本年もよろしく願いいたします。



静岡県富士財務事務所  
所長

**田代 恵子**

昭和30年4月11日生まれ

あけましておめでとうございます。

県に奉職して38年、あっという間に還暦の年を迎えました。家族や職場の多くの人に支えていただき、今あることに感謝しております。

皆様が「前途羊羊」たることを祈念し、また、税に携わる者として適正で公平な税務行政の推進に努めてまいりますので、本年もよろしく願いいたします。

今年の干支であります未は、穏やかな性質で群れをなし、チームワークによって困難に立ち向かうと言われております。

私共も未にあやかり、チームワークを大切に、皆様の暮らしを支える基盤づくりを推進し、安全・安心な地域づくりに向けて、努力してまいりたいと存じます。



静岡県下田財務事務所  
所長

**高木 宏通**

昭和30年9月8日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

早いもので今年還暦を迎えます。今日まで支えてくださった皆様に感謝の気持で一杯です。

下田の柿崎弁天島に吉田松陰の渡海の像があります。太平洋を指さす姿から世界を目指す松陰の気持ちが伝わってきます。私も心機一転、挑戦の気持ちを忘れず、残りの任期を全うしたいと考えております。



富士市長

**小長井 義正**

昭和30年7月30日生まれ

新年、明けましておめでとうございます。

私は、富士市をかつてのように活気あふれるまちにしたいとの思いから、昨年の富士市長就任以来、「まちに元気を、人に安心を」を信条に、「生涯青春都市 富士市」の実現を目指し、様々な施策を進めております。

生涯青春都市の礎を築くため、今年も、市民の皆様とともに積極的に取り組んでまいります。



西日本電信電話株式会社沼津支店  
支店長

**立岩 紀尚**

昭和42年4月8日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

未年の人は、よく「穏やかで人情に厚い」と言われますが、今年一年、人と人との繋がりを大切に、穏やかだけでなく、時には情熱的に仕事や趣味に立ち向かう姿勢で頑張っていきたいと考えています。



静岡県沼津土木事務所  
所長

**石塚 基一郎**

昭和30年8月2日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

## ◎「安倍カラー」政策推進へ 安保や改憲取り組みで



共同通信社 政治部長

鈴木 博之

安倍晋三首相は昨年12月の衆院選で与党が獲得した定数の3分の2を超える議席を背景に、「安倍カラー」の政策を推進することになりそうだ。まずは安全保障政策の大転換となる集団的自衛権行使を可能にする安全保障法制の整備が挙げられる。政府、与党は4月に行われる統一地方選への影響を避けるため、関連法案の国会審議を5月以降に本格化させるようだ。しかし、自衛隊の海外での任務をどこまで拡大させるかで積極的な自民党と慎重な公明党の間で法案作成が難航することも否定できない。

8月には首相の歴史認識を反映した戦後70年談話を発表する。昨年11月、北京で行った習近平中国国家主席との会談で、過去の植民地支配と侵略を認めた1995年の村山富市首相談話を継承する考えを伝えた。しかし、「戦後レジーム（体制）からの脱却」が悲願であるはずの首相が、村山談話に「違和感」（官邸筋）を抱いているのは間違いない。談話の内容によっては、中韓両国が反発する事態も予想される。

安保法制の整備、戦後70年談話発表の後の9月には、自民党総裁選が予定されている。しかし衆院選結果を受けて安倍首相が無投票再選されるとの見方が支配的だ。再選されると、任期の2018年9月まで首相の座を占める長期政権が現実味を帯びてくる。そうなれば、首相が「歴史的チャレンジ」と意欲を見せる憲法改正への取り組みを本格化させるとみられる。自民党は9条を含む改憲草案を既に決定しているが、まずは武力攻撃や大規模災害に対応するための緊急事態条項や環境権の新設などが検討されることになりそうだ。

4月の統一地方選は、今年最大の政治決戦になる。自民党は「政権奪還の総仕上げ」の選挙と位置付けているが、民主党など野党にとっても「自民1強」を崩す足かがりになる選挙と言える。統一地方選とそれに先立つ民主党代表選の結果が、来年夏の参院選をにらんだ野党再編論議に大きな影響を与える可能性もある。

## ◎緩やかな回復継続 米利上げがカギ



時事通信社 経済部長

佐藤 亮

2015年の日本経済は、起伏はあるものの緩やかな回復基調が続くだろう。基本的に「円安・株高」の流れは変わらず、企業収益の増加→雇用・所得環境の改善→消費拡大の動きが強まっていく公算が大きい。

第1の要因として、自民、公明両党が昨年末の総選挙で勝利し、安倍政権の経済政策「アベノミクス」が継続することが挙げられる。政策の是非はさておき、企業経営者は経営戦略を長期的な視点から立案することが可能となった。経済は安定政権の下で成長しやすい。経済政策の継続性が担保されたことで、今後、より積極的な行動に出ることができる環境が整った。

このところの原油急落も日本経済にとっては好影響だ。これが第2の要因。原油安はエネルギーコストの抑制などを通じ、企業収益を一段と押し上げる。原油安に伴って産油国の経済悪化懸念などから、世界の株式市場への影響も少なくないが、日本にとってはプラス要因の方がはるかに大きい。

第3の要因は、日銀の異次元緩和効果だ。企業や個人は極めて低い金利水準で資金を調達できる環境が当面続くことは確実。日銀は「2%の物価上昇目標」を政策目的に掲げており、黒田東彦総裁は達成まで大規模緩和を続ける考えを示している。原油安により15年中の達成は困難な情勢だが、物価の上昇スピードが鈍くなるか、あるいは景気がさらに後退しそうな場合、日銀はちゅうちょなく追加緩和に踏み切るだろう。

最大の懸念は年央にもあるとみられる米利上げの影響だろう。米国、欧州、日本とも空前の超金融緩和政策を続けてきたため、米国の利上げにより世界中にあふれているマネーがどのように反応するか、誰も読み切れない。先進各国は金融、財政の出動余力が極めて小さくなっており、政策対応いかんでは世界の金融市場が不安定化し、日本経済に悪影響を及ぼす事態も想定される。

東部地区分科会

2014年11月11日開催

.....

## 人と動物の共生拠点

.....

# 「人と動物の未来センター」実現へ

.....

## 動物の愛護と福祉の意義を考える

.....

### トークショーとパネル討論

.....

「サンフロント21懇話会」（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長）は2014年11月11日、第20回東部地区分科会を沼津市のプラサヴェルデで開いた。会員ら約140人が参加した。懇話会が提言し、民間団体が沼津市内に建設を計画している「人と動物の未来センター」の実現に向けて動物の愛護と福祉の意義を考えた。

北村敏廣静岡新聞社代表取締役専務は「人と動物の共生施設は民間による国内初の本格的な拠点であり、地域への波及効果も期待できる」とあいさつし、開催地を代表して栗原裕康沼津市長は「動物愛護は時代に即したテーマ。時代を先取りする事業になる」と強調した。

「動物の愛護と福祉で一真の成熟社会を目指そう」と題したトークショーには、動物の保護やレスキュー活動に取り組んでいる女優の浅田美代子さんが登場し、日本のペットを取り巻く悲惨な実情や問題点などを語った。

パネル討論「新たな地域創生—人と動物の共生施設を拠点に」は、栗原沼津市長、犬の殺処分ゼロ（昨年度）を達成した川崎市動物愛護センターの角洋之所長、愛犬と泊まれる宿を展開するベリークルーズの高橋祐一社長、犬猫の殺処分ゼロを目指すアクションプランを発表した牧原秀樹衆院議員の4氏が登壇した。中山勝企業経営研究所常務理事（サンフロント21懇話会T E S S 研究員）の進行で、共生施設の必要性や運営方法、課題などについて意見を交わした。

## 主催者代表あいさつ



静岡新聞社代表取締役専務

北村 敏 廣

本日は「人と動物が共生できる社会の実現」を大きなテーマに、トークショーとパネル討論を通じて様々な視点から人と動物の幸せや新たな地域づくりを考えていきたいと思っております。現代社会におけるストレスの増大や都市化の進展による人間関係の希薄化などで、人々が動物に求める癒しの必要性、重要性はますます高まるでしょう。一方、飼育放棄などで日本では年間16万頭を超える犬、猫が殺処分されています。こうした動物福祉後進国の現状を打破するための支援施設の整備は急務です。

サンフロン21懇話会は2011年に動物愛護と福祉のための総合施設の構想推進を静岡県知事に提言しました。沼津市に開設が計画されている「人と動物の未来センター アミティエ沼津」の実現は、来年度の懇話会設立20周年の記念事業に位置付けられる国内初の民間による本格的な人と動物の共生拠点となります。地域への波及効果も期待できる事業です。

悲惨なペットの現場を知る女優浅田美代子さんのお話やパネリストの皆さまが繰り広げる活発な議論が、人と動物の未来センターの開設を後押ししていただけるものと確信しています。ご来場、誠にありがとうございます。

## 開催地・懇話会代表あいさつ

サンフロン21懇話会の皆さま方には20年の長きにわたり、この地域の様々な活動について有意義な提言を多数いただいております。心から感謝を申し上げます。また本日は「動物愛護」がテーマということで、今沼津市西浦で計画されています民間による愛護施設の実現に向けての大きな応援団ということができると大いに期待しているところでもあります。

動物愛護はまさに時代に合った、時代に即した大きなテーマです。まだまだ市民の間にはピンとこない方もあるかと思いますが、おそらく数年先には相当大きな関心事になるだろう、日本全国でなるだろうと思っています。そういう意味では時代を先取りする事業ではないでしょうか。ぜひ公益財団法人動物臨床医学研究所の山根義久理事長をはじめ多くの皆さま方の熱心な活動がこの沼津市で実を結ぶようにしたいと願っています。

実現に向けての課題はまだありますが、本日まで出席の皆さま方にもご理解をたまりまして私どもの活動を支援していただければ大変にありがたいと考えております。そんな期待も込めましてきょうの懇話会が実りあるものとなりますよう心からご祈念申し上げます。



沼津市長

栗原 裕 康

## トークショー

# 「動物の愛護と福祉で～ 真の成熟社会を目指そう」

ゲスト  
浅田 美代子 さん



《聞き手》  
鈴木通代  
(静岡放送ラジオ局  
編成制作部部長)

知っていますか。日本では今、年間16万頭の犬や猫が行政の施設によって殺処分されています。引っ越す、世話が面倒、飽きた、吠える、噛む、年を取った、病気になった、子供にアレルギーが出た、離婚する……

そんな理由で捨てられる彼らは家族の一員と呼ばれていました。

想像してください。家族の一員と呼ばれた動物たちがそうした境遇にいることを。

殺処分は私たちが自治体に納める税金で行われているんですから。動物が好きか嫌いかに関係のない社会問題です。

そしてこの不幸を止められるのは私たちです。

ペットを飼う前にどんなことがあっても責任を持って飼い続けることができるのか、家族でよく話し合ってください。

その動物についてちゃんと学び、正しい飼い方をしてください。(後略)

## 家には4頭の保護犬、 人間を信頼する姿に感動

—冒頭で動画をご覧いただきました。ペットへの思い、多くの人たちへのメッセージを込めたこの動画をプロデュースされたのがゲストにお迎えした浅田美代子さんです。たくさんの方がペットへの思い、皆さんへのメッセージを寄せられていますね。

浅田 皆さん本当に二つ返事で「いいよ」とおっしゃってくださいって、すごくうれしかった。ペットを取り巻く事情を知らない方がまだまだ多いので、色々な方が言ってくださるともうちょっと分かりやすくなるかなと思って。

—お忙しい芸能生活の中で動物の愛護や福祉の活動をされています。最初にペットと暮らし始めたのはいつごろからですか。

浅田 小さい時から犬はいました。今は4頭います。保護犬の子がほとんどですけど。みんなそれぞれで楽しく暮らしています。

—保護犬といいますと。

浅田 家にいるのは処分寸前だった子、劣悪な多頭飼育の環境にいた子、鹿児島から処分寸前で引き取った子、それとブリーダーで繁殖犬の役割を終えた子の計4頭です。以前はペットショップで買っていたのですが、今は違います。

—今日は写真もお持ちいただきました。

浅田 真ん中の私が抱えている犬は千葉県富里の保健所から来た本当に殺処分寸前だった子です。もう5年になります。黒は繁殖犬でした。隣が鹿児島から。小型犬でこのくらいなら関東で里親さんが決まるのではないかと思ってとりあえず引き取ったのですが、家にいる間に手放せなくなって。劣悪な多頭飼育下にいた子は3つの団体でレスキューに行ったのですが、この子だけちょっとあぶれちゃって。

—お話を伺っていると本当にかわいそうで。そうした犬たちと暮らすと、最初は警戒されたり、なつかなくなったりと苦労が多かったのでは。

浅田 保護犬というと、汚い、病気かもしれない、まずなつかないだろう、しつけはどうするって皆さん思われ、引いてしまわれます。けれども時間を掛ければちゃんとおしっこができるようになります。虐待の跡があって人を怖がり、ゲージの隅で唸っていた子も日に日にちょっとずつ尾っぽを上げて少しずつなついてきます。尾っぽを振って玄関まで迎えに来てくれたときにはうれしくて涙が出ました。

これらは何年もかかるということではなく、何カ月、半年から1年の間にはそういう子になってくれます。子犬の時から飼うことも感動、何か覚えるとかいう感動がありますが、保護犬の子がなついていくというのは素晴らしい感動を与えてくれ

と思います。それぞれどういう環境で生まれ育ってきたか分からないですが、ちゃんとなつてくれます。彼らはどんなひどい目にあってもやっぱり人間を信じます。そこが素晴らしいなあとと思って、私も今日に至っています。

—犬の信頼を得るための苦労や気を付けることがあるかと思いますが、どんなことに気を付けていますか。

**浅田** まず家に慣れさせます。すぐに散歩に連れて行ったりとかはしないで、ここはあなたのお家ですよ、安全なんだよ、もう大丈夫だからね—と毎日言っていました。保護犬を引き取った方ですぐに散歩に連れて行き、リードが抜けて行方不明になってしまい、運悪く事故に遭ってしまったということがありました。そうするとかわいそうなことになるので、まず家に慣れさせてあげるのが一番ではないかと私は思います。新しい家族と新しい環境で暮らすというのは人間だって慣れないことがありますから、犬たちだってそうですよ。

あとは動物病院の先生に診察していただき、必要な検査をしてもらいます。最初にやります。また人に迷惑を掛けないこと。例えばかみつくと犬だったら、なるべく人に近寄らせないような注意が必要です。時間が経てばかみつきも治ります。

—レスキューとか保護犬とかの話が出てきましたが、浅田さんは殺処分前だった保護犬を引き取ったり、悪質なブリーダーまたは劣悪な環境にいる犬たちを助けたりするレスキュー活動をされていますね。

### 殺処分は減っても、悲惨な環境下の繁殖犬

**浅田** 殺処分は年々減っています。処分の手前で引き出す団体さんが増えているからです。一方で繁殖業、最悪・劣悪な繁殖業者がいますので、そういうところにいる子たちは闇の中、闇に葬られています。なので殺処分の数は減ったけれど、子供を産むためだけに飼育されている犬がたくさんいます。

—繁殖犬は外に出られないまま一生そこで暮らすのですか。

**浅田** 散歩をしたこともなければ撫でられたことも、洗ってもらったこともない。役に立たなくなったらたぶん処分されてしまうのでしょう。病院で手術すれば治る子も放置されたまま、狭い所に閉じ込められてもう背骨が曲がってしまった大型犬も、金網に足が入って骨折したままの子もいます。それでも子供は産めるということなんですね。こういう業者がいっぱいいます。これがペットシ

ョップに陳列されている犬の親の姿です。

食事も悲惨ですよ。ドッグフードの安いのをふやかして近所の学校かなんかの残飯を加えて与えていました。健康にもいいわけがない。ですからペットショップで買う方が安全というよりも、こういう場所で生まれた子がセリにかけられて、いっぱい犬のいるペットショップに行きますので、実は健康じゃないし、かなり早くに親から引き離されるので免疫もできていません。

—レスキューに行き、実際に見た光景なんですね。ちょっと信じられない。

**浅田** 何と600頭飼育していた業者もいました。使えなくなった子はレスキューさせてくれるのですが、産ませられ過ぎてあごの骨が溶けちゃっているとか、老犬とか、本当に悲惨な状態です。ペットショップにいるかわいいチワワやプードル、ダックスフンド、シーズーとかがこういったところで生まれているのが現実です。決してまれな例ではありません。

—どういうことからレスキュー活動を始められたのですか。

**浅田** 最初に引き取ったのが殺処分前の子で処分ゼロから入っていったのですが、その過程で悪徳繁殖業者のを知り、実際に見に行ったらあまりにも壮絶で。ここは地獄だ、何とかしなくちゃいけないと思いました。

—そういう劣悪な環境にいる犬も愛情を持って接してあげると、なついていくわけですね。

**浅田** 需要と供給じゃないですけど、ペットショップで買う人が増えているからこういうところも増えます。本当に犬を飼うなら、まずペットショップでもいいとしても、この子の親はどこの親ですかということをきちんと聞くことです。ペットショップの人はたぶん分からないと思いますけど。ちゃんとしたブリーダーさんのところで生まれた子なのか、買う側も責任を持って分かって飼わないと。ワーかわいいというだけでペットショップで買ってはいけないなと私は思っています。

—子供が小動物を飼いたいと言った時も、ペットショップに行つてすぐに買い与えるのではなく、浅田さんが先ほどおっしゃったようなことも踏まえておく必要があるということですね。子供たちの教育については「いのちの教室」を開催しているそうですが。

### 「いのちの教室」開き、政治にも働きかける

**浅田** 小学生を中心に学校の道德の時間を利用し、私たちのグループで小学校に出掛けています。殺

処分の現状などはアニメでこういうことがあるんだよと見せる程度にしていますが、動物を飼うにはどうしたらいいかを教えたり、子供たちとトークセッションをしたりしています。殺処分について尋ねると「飼うときにちゃんと最後まで飼うって誓約書を書けばいい」とか言う声が返ってきます。小学生だと素直なので入り込んできてくれてすごく楽しいです。この子たちはきっと犬を捨てたりとか虐待したりはしないだろうと思います。

—浅田さんは子供たちだけでなく、政治の世界にも出かけていっていろいろ訴えられています。この後のパネル討論に登壇される牧原秀樹衆院議員が環境大臣政務官を務められていた昨年10月、「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」を立ち上げ、行動計画となる牧原プランをことし6月に発表されていますが、その中でもいろいろ意見を述べられているそうですね。

**浅田** 私たちがどんなに頑張ってもこういう商売、業者とかはなくならない。やはり政治というか、法律を何とか改正してもらわないと無理です。動物愛護管理法が昨年改正されましたが、あまり変わっていません。4年後にまたあるのですが、その時までに変えていただかないと不幸な子たちは減らないと思っています。牧原さんが立ち上げてくださった環境省のプロジェクト、「牧原プラン」は素晴らしい第一歩だと思いますが、動物虐待とか悪徳繁殖業者に対するブリーダー規制というものをに入れてもらわないといけない。例えば一人につき何頭までとか。600頭なんてあり得ないことです。ある程度の年齢制限とか、飼育環境の条件とかも必要です。今、免許制にさせていただくよう頑張っています。現状は登録制ですから私でもなれます。登録すればいいのでお金儲けだけの人がどんどん増えています。命を預かっているのだから免許制にしないと。そこは政治が頑張ってくれないと進みません。一生懸命頑張ってくださいっている牧原さんたちに期待しています。

—ペットの販売に関して8週齢規制を打ち出していますが。

**浅田** 8週齢とは、8週間親元にはないと離してはいけないという規制です。先進国はすべてそうですが、日本は今年の法改正でもぎりぎりの56日、付則つきです。8週齢は親から免疫力を受けたり、社会性を学んだりする時期です。日本だと30日、40日とかで出していますので、社会性が身につかない。犬が遊んでいるつもりで噛んだらそれは本気だったとか、精神的に不安定なのでかみついたり、吠えたりする子になってしまいます。すると買った人がかみつくとかうるさいと言って捨て

るんですね。こうなると悪循環です。日本人はともすれば小さければいい、小さければかわいいという感覚にとらわれがちです。これは自己満足であって犬や猫のためには良くないことです。

—ペットの生体販売、移動販売の原則禁止なども盛り込んでいますね。

**浅田** 生体販売は先進国ではもうやっていません。ドイツとかでもペットショップはありますが、食料など必要なものしか置いてありません。日本のようにゲージがあってその中に子犬がいるようなショップは一切ありません。生体販売は禁止しています。米国ロサンゼルスもそうになりましたし、フランス、英国などにはありません。

生体販売は動物虐待ですからなくすべきだと思います。欧州などでは犬が欲しい場合には保護施設に行って引き取るか、ブリーダーさんのところに自分で行って「この子の子供」というように予約をします。そしてブリーダーさんには「あなたには譲れない」という権利があります。ちゃんと飼い主を見極めなければいけないということです。日本は今、犬や猫があふれています。その背後には殺処分やお金儲け第一の産めや増やせ、どこまで膨れ上がるのでしょうか。本当に危機感を持ちます。

—売れるからペットショップが増え、悪質なブリーダーが後を絶たない。また飼う人が増えていて、飼いきれなくなると捨ててしまう。こうした悪循環がずっと続いているということですか。

### 続く悪循環、避妊・去勢も欠かせない

**浅田** むいぐるみじゃないですから簡単に買えること自体がおかしいと思います。ローンで買いハンドバッグに入れて、おもちゃかアクセサリのようにして、揚げ句にはおしっこをしてダメだからと言って捨てる。本当に悪循環です。

—動物に対して私たちの社会がどう向き合っていくかということが試されているように思いますが。

**浅田** 例えばマイクロチップ。賛否両論あるのですが、迷子になった時、犬が付けていれば飼い主が分かります。地方ではよくあることですが、飼い主が2、3日すれば帰って来るだろうと思っていても帰ってこないのに近所に聞く、張り紙をするなどしても見つからない。やっとセンターにたどり着いたらもう処分されていたということがすごく多いんです。またペットショップで買う時にマイクロチップを義務化していただき、買った人の登録をすれば捨てることができなくなり

ます。

—犬や猫が増えることをある程度コントロールする必要もありますね。

**浅田** 避妊・去勢ですね。特に猫、地域猫は確実に避妊・去勢をしなければいけない。やはり5匹とか生まれてしまいますから。かわいそうにと餌を与えているのではなくて必ず避妊・去勢をしていただきたいと思います。「軒下で産んじやったの」とか言ってセンターに連れてこられて、その日か次の日に処分されてしまいます。なぜなら授乳しなきゃいけない。センターの職員さんにはその時間がありません。はっきりとは言えないけれど、年間16万頭ぐらい処分されているうち犬は4万頭か5万頭、ほとんどが猫です。子猫が多いですね。

—今町内会とかでボランティアさんが地域猫を捕まえて手術をしてもらい、耳をちょっとカットして元に戻すということをされていますが、こうした活動を社会で支えていけるようになるといいですね。これまでのお話を通して残念ながら日本は動物にとって住みにくい社会かなという気がします。先進国とされているのがドイツ、浅田さんも行かれています。

### ティアハイムは人と動物が 信頼を回復する場所

**浅田** ベルリンのティアハイムに行きました。素晴らしい施設でした。

—ティアハイムは公益財団法人臨床医学研究所が開設を予定している「人と動物の未来センター アミティエ沼津」が目標とする施設ではないかと思えます。浅田さんのお話の前に、静岡新聞社東部総局の船田枝里記者が5月に行っていますのでレポートしていただきます。

**船田** ティアハイムのティアはドイツ語で動物、ハイムは家で動物の家ということになります。何らかの理由で飼えなくなった動物や保護された動物が新たな家を見つけるまでの間、暮らす場所として機能しています。2001年からこの地にあり、ヨーロッパ最大の動物保護施設だそうです。保護される動物は犬や猫だけではなくあらゆる動物です。一番多いのは猫、次に犬、後はウサギやネズミなどの小動物となります。犬舎を見ると個室です。ドアには紹介カードがあり、保護された経緯とか基本的性格、求める飼い主像などが書いてあります。猫舎はすごくきれいで何頭かいましたが、外に出る小窓が付いていました。

次に譲渡までの流れですが、飼い主が飼えない

と言って持ち込んだ動物を有料で引き取り、しつけの有無を確認して外に出せる子なら来訪者から見える動物舎へ、しつけがされていなければ専門家が訓練します。引き取り希望者が現れた場合、動物や職員との面談を何回も繰り返して、新しいお家に行きます。

運営主体は動物愛護団体で行政とかはほとんど関わっていません。ベルリンはほんの一部だけ行政が関わっています。運営はほとんど寄付で成り立ち、獣医師さんとか動物看護師さんが常駐し、清掃や散歩などに多くのボランティアの方が参加しています。ここでは治る見込みのない病気以外では殺処分することはありません。ティアハイムの方は「ここは人と動物が信頼を回復する場所だ」と言っていました。

**浅田** 船田さんがレポートされたように素晴らしい施設で、個室で何と床暖房が入っていました。猫が出入りしていた小窓のようなものは犬にもあって、広いベランダに出ることができるんです。びっくりしました。一人一人住める感じでした。それからご飯も何種類もあって、その子に合った食事ができるようになっていました。

—考えてみれば犬種とか年齢によって食べ物違って違いますね。

**浅田** そうなんです。ちょっと太り過ぎだとか病気の子もいたりしますので、そういうところまでケアしてもらえます。ドイツで驚いたのは電車もデパートもレストランも犬と一緒に入れるんです。入れないのは肉屋さんですが、外につなぐフックを用意しています。見方を変えればそれだけちゃんとしつけがされているということです。犬を飼ったらまずしつけ、犬だけじゃなく人間もしつけると言っていました。街中でもノーリードが多かった。それだけしつけがされているということは国民性ができているということでしょうね。しつけがきちんとされていれば問題行動を起こす子も少ないですし、自然体で犬と人間が仲良く暮らしているという感じでした。

—ティアハイムではリハビリというか、人との間隔を取り戻していきながら引き取り手を待つという形を取っていますが、日本にもこのような施設があったらいいですね。

**浅田** 行政が絡まずに寄付だけで成り立っているのがすごいと思います。寄付の額もそんなに高くなくて年間一人2000円か3000円、寄付する人の数が非常に多いということですね。日本はまだ毎月いくらというような定期的な寄付の仕方が浸透していません。定期的な寄付が増えていけば施設運営が成り立ちやすくなると思います。

—ティアハイムのような役割を担っていくと期待されているのが「アミティエ沼津」です。開設に向けての期待とか要望がありましたら聞かせてください。

### 成功を願う「アミティエ沼津」、全国へ広がれ

**浅田** 日本にはちゃんとした施設があまりないので、ティアハイムのような施設を目指して頑張っで運営して行ってほしいと願っています。やはりセンターにいる子たちには期限があって処分は避けられない。処分が決まっていな施設というのが非常に大事で、ここで成功していただいて全国に広がっていけば、と思います。

—施設の方だっでやりたくて処分しているわけではないでしょうし、行政がペットの処分に追われているということにも違和感を覚えますが。

**浅田** 私たちが納める税金が使われているわけですから、行政も殺処分ゼロや生かす方向へと頑張っでほしいと思います。一番の問題は捨てる飼主です。簡単に捨てる飼主をどんどん減らしていくことが重要です。

—「アミティエ沼津」が人と動物の交流の場として新たな教育の場となってくれるといいですね。

**浅田** お子さん連れで今日は日曜日だから行ってみようかと訪れ、保護犬たちを間近に見たり、お散歩などのボランティア活動も体験してみる。そうして保護犬もかわいいということが分かってくれるといいですね。ペットショップに行くよりいいんじゃないでしょうか。

—保護犬は怖くないということが分かりました。でもまだ保護犬のことを知らない方が多いと思います。

**浅田** 保護犬もいったんセンターなんかに入った子は助けられたということが分かっています。わがままじゃなくていい子が多い。子犬から飼っている子よりいい子が多いんです。中には問題行動のある犬もいますが、センターという異様な状況下でただ怖いだけで吠えている場合もあって、ワンワン吠えている犬でも団体さんが引き出した瞬間に尾っぽを振っておとなしくなります。彼らは助けてもらったということがすごくよく分かっています。それは声を大にして言いたいです。

—「アミティエ沼津」オープンの折にはぜひ沼津に来て提言などをしていただきたいと思います。

**浅田** さんご自身がペットと一緒にいて幸せを感じるのとはどんな瞬間ですか。

**浅田** 無償の愛でしょうか。とにかく帰ってきたらすごく喜んでくれますし、仕事や人間関係で嫌

なことがあって気分悪く帰ってきた時でも、あの無償の愛で迎えられるとただいま、ただいまと言っているうちに悩み事がばからしく思えるなど精神的に助けてもらっています。早朝の散歩など大変なこともあります、それ以上にいろんなものをもらっています。

—最後に浅田さんから一言を。

### 動物に優しい国になろう、最後まで看取ろう

**浅田** 動物には感情が必ずあります。うれしいとか悲しいとか。不幸な子たちを増やさないようにちゃんと動物を守ってあげられる社会にしたい。日本はペットに関しては後進国過ぎます。日本人は生来優しいのに、最近では儲かるからというだけで命を粗末にしたりしているの、もうちょっと動物に優しい国民になって行ってほしいと思います。

かわいいというだけでは動物愛護にはなりません。犬や猫を飼うなら最後まで面倒をみてあげてほしい。最近老犬を保健所に持ち込むケースが増えています。病気になった、歩けなくなったからと10何年飼っていた犬を持ち込むのです。老犬には老犬のかわいさがあります。最後まで看取ってあげる覚悟で飼っていただきたい。その覚悟がなければ飼う資格がないと思います。

動物愛護という言葉が死語になるぐらい普通になり、殺処分という言葉が口にされなくなるような社会を望んでいます。

—浅田さんが大好きな言葉を、ぜひ皆さんに紹介したいそうです。インド独立の父マハトマ・ガンジーの言葉です。

**浅田** 「国の偉大さ、道徳的発展はその国における動物の扱い方で分かる。もし人間が動物より優れているというのなら、人間は下等な動物のまねをするという過ちを犯していることになる」

### ＜ゲスト・プロフィール＞

**浅田 美代子 氏**(あさだ・みよこ) 東京都出身。TBSドラマ「時間ですよ」でデビュー。以来、数々のTVドラマ、「釣りバカ日誌」などの映画に出演。バラエティでも活躍する。芸能活動の傍ら、保護犬をたびたび迎え入れるなど幅広く動物の愛護、福祉活動に取り組んでいる。ペット販売の「8週齢規制」「ブリーダーの資格制導入」も訴え、小学生などに命の大切さを訴える「いのちの教室」を各地で開いている。今年6月に環境省が発表した「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」の行動計画であるアクションプラン(牧原プラン)に賛同。ドイツのティアハイムベルリンを訪れ、問題犬の世話にも当たった。



# 「新たな地域創生— 人と動物の共生施設を拠点に」



## 〈パネリスト〉

栗原 裕康氏(沼津市長)  
角 洋之氏(川崎市動物愛護センター所長)  
高橋 祐一氏(ベリークルーズ代表取締役社長)  
牧原 秀樹氏(衆議院議員)

## 〈コーディネーター〉

中山 勝氏(企業経営研究所常務理事 サンフロント21懇話会TESS研究員)

◆中山 地域創生は安倍内閣が最も重視するテーマの一つであり、人口減少、高齢化が加速的に進む成熟社会のもとで新しい地域づくりが求められています。加えて家庭生活のみならず医療、介護の現場でも動物が我々の身近な存在となっています。これらを背景にサンフロント21懇話会は設立20周年記念事業の一環として沼津市西浦に開設が計画されている「人と動物の未来センターアミティエ沼津」の実現促進を掲げています。

パネル討論の口火は栗原市長に切っていただきます。誘致の理由をお聞かせください。

### 寄付地生かす絶妙のタイミング 動物愛護は未来へのキーワード

◆栗原 山根義久先生(公益財団法人「動物臨床医学研究所」理事長)が取り組んでいる人と動物の未来センターは当初、近隣の市が建設予定地になっていました。核家族化、高齢化、少子化が進む中でペットを飼う方が増えていますが、先ほどの浅田美代子さんの話にもありましたように日本人のペットの飼い方というのは身勝手なところがあまして、こうした欠点を補い、かつ民間で、

しかも伊豆半島にできる。これは素晴らしいことだと、羨望の念を持って見ていました。そのころ、沼津市はある大手商社さんが寄付してくれた70万坪もの広大な市有地(西浦地区)の利用計画を検討していましたが、いいアイデアがありませんでした。そんな時に動物愛護センターの建設予定地が宙に浮いたと聞いたのです。「これは沼津がやるべきだ」と判断し、手を挙げました。絶妙といっているほどタイミングが良かった。

なぜなら動物愛護の思想はこれからどんどん普及してきます。子供たちの教育にも素晴らしい効果を発揮しますし、自分自身のことを考えてみてもストレスの多い生活をしている中でペットにどれだけ癒されているかがよく分かっています。そういう意味で大きくいうと、地球は生きています。そのサイクルの中では動物も人間も一緒ですから、人間だけ自分勝手に、好き勝手にいる方がいいわけじゃない。動物愛護の思想はますます広がり、根付いていくと思います。ですからセンターはこれからの時代を先取りする施設となり、全国から注目を浴びようになるでしょう。そうすると動物が集まりますし、当然人間も集まる。沼津市の活性化に大きな役割を担うことが期待できると、

このように考えているところです。

◆中山 「人と動物の未来センター」が起爆剤となって新しい沼津の一面を作り出していくと受け止めていいのでしょうか。

◆栗原 そういことです。ペットに関してはまだ飼っている人間の側の身勝手さが目立ちますが、やがて通用しなくなります。ですから動物愛護が今の環境問題と同じように日本人にとって相当に重たいテーマになるだろうと思います。そうした問題と先進的に取り組んでいくことは沼津を含めこの地域の大きなセールスポイントになるだろうと考えます。

◆中山 昨年度動物（犬）の殺処分ゼロを実現された川崎市動物愛護センター所長の角さんにこれまでの取り組みの歩みや施設概要を紹介していただきます。なお余談ですが、角さんのお母様は沼津市のご出身だそうです。

### 昨年度、犬の殺処分ゼロを達成 普及・啓発へ次々と市独自制度

◆角 川崎市は昭和48年に動物愛護を基本とした市独自の条例を制定しています。通称はワンワン条例。制定の背景には市街地開発とともに飼い犬の数も増えて咬傷事故が多発するようになり、



角 洋之氏

県の条例に基づいていた犬対策を市独自に強化する必要があったからです。翌年には動物管理センターを開設しました。当時の第一の仕事は放浪犬を捕獲・収容することでした。センターは敷地面積1300平方メートル、建築面積は約600平方メートル、鉄筋コンクリート2階建てです。こぢんまりとした、今は古ぼけた建物でございます。職員は20人、うち獣医師が5人、動物介護士の有資格者が3人います。動愛法（動物愛護管理法）の改正で処分数減少の方針が出て獣医師の負担が増大しましたので、負担軽減のために本年度から動物介護士に入ってもらえるようになりました。

殺処分ゼロと紹介がありましたが、これは犬についてです。私たちは正直に申し上げて殺処分ゼロを目標にしてやってきたわけではありません。

「助けられる命は助けましょう」というスタンスで取り組んできました。実現できたのはセンターに出入りするボランティアさん、動物愛護団体さん、獣医師の研修や動物の検査・手術を受け入れてくれる民間の動物病院さん、こういった方々の協力のお蔭です。川崎市は市独自の条例制定時に民間指導員制度を設け、翌年には飼い犬・飼い猫の避妊・去勢手術の必要性を普及啓発するため、全国に先駆けて補助金制度を導入しました。指導員制度はその後、川崎犬・猫愛護ボランティアに変わりましたが、おそらく条例でボランティア制度を規定しているのは川崎市だけでしょう。

最近、この殺処分ゼロばかりが前面に出ていますが、現場を知る私にはゼロと断言できません。平成の大合併に伴う広域化で行政の困難さも現れていますし、重病で苦痛を伴っているケースもありますから。

◆中山 川崎市のワンワン条例は締め付けばかりではないのが特徴かと思います。子供たちの教育につながるソフト面はいかがですか。

◆角 条例制定前に大先輩が咬傷事故を1件1件検証され、飼い主が犬の習性をよく理解していないこと、噛まれる被害者の方も犬の習性をよく理解していない—といったことを導き出しています。そして動物の適正飼養を普及・啓発して動物愛護の気風を高めようとこの条例を作ったのです。ともすれば飼い主に対する義務や罰則の強化に走りがちですが、先見の目を持った先輩がいたということでした。

もちろん私どもの動物愛護センターは教育的な施設としての役割を重要視しています。動物ふれあい教室から始まり、今は動物愛護教室として小学校1、2年生の生活科の授業に取り込み、年間2000人以上の児童が参加しています。こちらが一方的に教えるのではなく、子供たち自身に考えてもらうプログラムです。センターの再整備計画が進んでいて順調にいけば平成30年度に開設の予定ですが、新しいセンターでは幼児の教育プログラムをベースに取り組みたいということで、昨年度から試行を始めています。

◆中山 「しぶごえグループ」として首都圏を中心にペットと泊まれるホテルを運営されています高橋さんに伺います。グループ名の由来を含めた業務内容や人と動物の関係性、お客様の反応や行動の変化などについてお話しいただければ。

## お笑い芸人からホテル再生へ 愛犬との素敵な思い出を提供

◆高橋 「しぶごえ」のいわれですか？ 実は僕は15年ぐら



高橋 祐一氏

い前までお笑い芸人をやっています、旅館の息子でもペット業界の人間でもありません。縁あってあるホテルの再生に関わった時に、

たまたま犬を飼っていたので1室だけペットを受け入れてみようと思ったのがきっかけです。愛犬家ではありませんし、犬もペットショップで衝動買いしたものでした。最初はホテルの中、糞だらけにされましたが、試行錯誤で改善を重ねました。そこにゴルフのショートコースがありましたのでドッグランができるようにしました。そのホテルが運よく再生できたのです。せっかく得たノウハウを生かそうと10年前に会社を興し、1店舗目を出すことができました。そこは元々ある企業の保養所でしたので新しい名称にしようとした考えた時、初代店長になる男の声が渋かったので、仮の名をしぶごえとしました。そのうちにすっかりなじんでしまって、もうしぶごえに決めちゃおうということになりました。安直で期待外れのネーミングで申し訳ありません。

ワンちゃんと泊まれる宿泊施設は千葉県に3、静岡県に2、長野県に1の計6店舗になりました。最初はゼロだったワンちゃん連れが週末ともなると、500頭とか500人とかが集まってくれる施設にまで成長しました。ワンちゃんのご飯はシェフが作っています。お客様も喜んでくれて結構人気があります。見ていますと、食事を人間用の皿に取り分け、ワンちゃんを膝の上に乗せてテーブルの上で食べさせているのです。これ12、3年前の話ですが、愛犬家ってすごいな、ワンちゃんは本当に家族の一員なのだと思います。以来、愛犬との素敵な思い出を提供することをテーマにやらせていただいています。僕たちもやりがいを感じ、一生懸命頑張っています。まだまだ行ける施設が少なく、お客さまのほとんどがリピートにつながっています。もっともっと展開してワンち

ゃんで行ける場所を増やしてあげたいですね。

高速道路のサービスエリアの多くにドッグランのスペースがあります。10年前はほとんどなかった。高速道路の利用者が必要とするからで、ワンちゃんを連れてどこかに出掛けたいという方たちがどんどん増えているからでしょう。将来、飛行機にワンちゃんを乗せられる時代が来るのではないかと思います。

◆中山 ペットの飼い方や接し方に大きな変化は見られますか。

◆高橋 民間企業なので、お客様はお金を払ってサービスを買ってくださっているのですが、ニーズというか要望はかなり高くなっています。始めたころは食事がおいしくなくても、部屋が多少小さかったり汚れたりしていても仕方がないという時代でしたが、今は様変わりしています。きれいじゃないとダメだし、ご飯もおいしくなくちゃダメと、ペットが泊まれない一般の宿と同じレベルを求めています。後は市町村が関心を寄せるようになり、企業のセミナーにもペットに関する内容が増えてきたことですね。

◆中山 栗原市長、角さんと高橋さんのご発言を聞いての印象あるいは感想を聞かせてください。

◆栗原 動物愛護というテーマが当たり前のこと



栗原 裕康氏

であり、崇高な目標であり、あるべき姿を示しているということが確認できました。角さんから殺処分ゼロへの道のりの厳しさをお聞きし、理想

を追い求めることは大事だが、なかなか大変だなということが良く分かりました。

もう一つ高橋さんのお話では、一言で言えば「儲かるんだ」ということ。だから税金を投入する云々ではなく地域の活性化につながる、大きな目標になるということです。西浦に建設が計画されている「人と動物の未来センター」は観光の起爆剤になります。そこから山を越えると旧戸田村で、ことし4月に道の駅ができました。動物と一緒に来ることができる道の駅にしようかなというプランが湧きました。動物と一緒に大手を振って散歩するコースも確保できます。これらによって地域が潤いますし、動機付けにもなります。わが意を得

たりという部分がありました。

◆中山 先ほど解散風吹く国会を終え、牧原秀樹さんが到着されました。牧原プランと呼ばれる「人と動物が幸せに暮らす社会実験プロジェクト」の推進役でもあります。早速ですが、今後国としてどのように進めていく考えでしょうか。

### 殺処分ゼロを明確にした牧原プラン 「アミティエ」の先進性を高く評価

◆牧原 昨年9月環境大臣政務官になった時、所管事項の中に動物愛護管理法がありました。減ってきたとはいえ殺処分は年間17万頭以上、1日に450頭以上が殺処分されていました。現場の方からすると、別に処分したくてやっているわけではありませんので、基本的には大幅に減らす方向で国がビジョンを示さなければならぬ。これが第一歩です。マイクロチップをどうする、8週齢をどうするなど細かい議論がたくさんあり、いろんな考え方の人がいます。この問題は冷静に考えなければいけない。まず国が殺処分ゼロを積極的に目指す方向を明確にして取り組む、これがこのプランの内容でして、何か一つポーンとやったらゼロになるというものではありません。

具体的には三つあります。まず飼い主と国民の意識の向上、共に同じ命を持つものだという事です。次に一度引き取られてしまうと大変ですから、引き取られないようにするための手立てを考える。そして引き取られた場合でも譲渡を含め、その後もしっかりと飼っていくような方針を示すことです。

「人と動物の未来センター アミティエ沼津」は三つのビジョンすべてに関わる先駆的な取り組みだとみています。環境省の予算、動物愛護にかけられる予算は限られていますが、モデル事業としての応援も可能ですし、専門家を応援派遣する方法もあるのではないかと考えています。

◆中山 沼津のセンターも支援対象になるとらえてもいいでしょうか。

◆牧原 間違いなくそうなるだろうなと思います。沼津の計画で感銘を受けたのは動物愛護と福祉を結びつけ、明確に打ち出している点です。今まであまりありませんでした。役所はタテ割りなので動物愛護は動物愛護、介護は介護、福祉は福祉ということで厚労省に勝手にやるなといわれるような風潮があります。この辺りを自治体のリーダーシップで取り払っていただくと大変ありがたいなと思っています。また栗原市長がおっしゃったよ

うに地域の活性化やまちおこしに生かしていくというアイデアも新鮮です。もし沼津で実現すれば積極的に先進事例として全国に紹介していきたいと思います。

◆中山 2巡目は「人と動物の未来センター」を



中山 勝氏

運営していくためには何が問題で課題か、どう克服していくかということに絞って、一步踏み込んだ議論を進めていきます。角さんには現在の愛

護センターを立ち上げる前にあった障害、あるいは克服事例を紹介していただき、福祉との絡みについても触れていただければと思います。

### 築きたい奉仕者らとの「信頼」 収益性の確保が継続につながる

◆角 「人と動物の未来センター」は民営という形であり、行政の施設とは違った部分があるかと思いますが、参考になればということです。

所長5年目になりますが、最初にしたことは施設を市民にオープンにする、殺処分室も含めてです。後にも先にもこれ一つしかやっていません。後は内部の人間関係。センターには獣医師のほか、現業職といって運転手、動物保護作業員、収容された動物の世話をする用務員など様々な職種の方がいます。一方で犬、猫とも収容数は減ってきましたが、殺処分を減らすため処分しないで保管する動物の数がどんどん増えてきました。獣医師が休暇もなく働いているのに対して運転手など外回りは仕事がなければ休憩室でごろごろ、そんな実態が常態化していました。何とか打開したいと思っていたところ、幸運にも現業職の方から「手が空いている時は獣医師さんのお手伝いをしましょうか」と声が上がり、意識改革が図れました。それから愛護団体との信頼関係の構築ということも大きかった。

川崎市は平成12年に市民愛護ボランティア制度を条例に盛り込みましたが、当初は正直、仲が悪かった。全体会議を開けばボランティアさんからは行政への不満、要望の嵐で、担当者はサンドバッグ状態となりました。行政の側もちょっと壁

を作ってしまった時期もあって、信頼関係の構築には10年近く掛かりました。現在41人のボランティアさんがいますが、冗談を言ったりしながら仲良くやっています。団体譲渡は平成18年度からですが、4団体から今は31団体ぐらいが登録しています。信頼関係の構築には労力を要します。要望はなるべく聞いてあげたいのですが、行政でするのでできないことはできませんとはっきり伝えないとイケません。あやふやにしていると不信感を持たれ逆効果になってしまいます。いずれにしてもボランティアさん、愛護団体さん相手は非常な労力を使いますので、対人能力の高い職員を配置してその頑張りに期待するというのが現状です。

◆中山 牧原さんは沼津の計画を素晴らしいとおっしゃっていましたが、そうはいつてもという点があるかと思えます。全国の事例を通していかがですか。

◆牧原 細かく言えば色々ありますが、4点ぐらいに整理してお答えします。まずすべての人、幅広い参加を求めていくことです。長野とかでは教育施設として学校教育に取り入れています。小さいころに行ったことがあり、動物がかわかったという経験、思い出は大きい。また定年になって犬を飼ってみたいという人が訪れる場でもありたい。幅広い年代の人が参加できる施設とすることが必要です。また施設に反対の方は必ずいますので、現地に足を運んでもらったり、体験したりしてもらうことも大切です。

2つ目は官、民を含めた経営です。動物愛護には必ずそれをやっている団体、ボランティアの方がいます。私の場合でも、全国に向けてプランを発表すると、「良くやった」という人と同じぐらい「けしからん」という人もいます。「けしからん」の中には実にいろんな意見があります。ある意味、真面目におっしゃっている意見も。まとめていくのは大変ですけど、こちら側に引き込んでいってお互いに協力していくことが大切ではないでしょうか。

3点目はやっぱり人材です。動物の扱いに慣れているのは獣医師さんであり、他にはなかなかい

ないでしょう。ですから動物の世話、経営の手腕、そしてタフな対応力を持つ獣医師さんを育て確保していく必要があります。公務員の方が従事している施設では専門的な地位を与えるところも出てきています。

難しいのは財源です。ドイツのティアハイムのような施設が注目されています。しかし運営は大変です。ペット税を入れる、ファンド方式を取り入れる、税制上の優遇措置—などのアイデアが出ています。環境省が応援できる予算が限られている中で、財源確保の道筋をつけていかなければなりません。運営の仕組みの成否はその施設の持続性に大きく関わってきますから。

◆中山 未来センターの開設・運営について高橋さんがポイントと考えることを提案も含めてお聞かせください。

◆高橋 具現化すれば素晴らしいだろうと思います。一番難しいのは継続ということです。牧原先生もおっしゃっていたように収益性をちゃんと確保していかなければなりません。僕がここを経営するなら他に頼らない。募金にも会費にも頼らないで継続させ、施設の効果を生むためにはどうしたらいいかということを考えます。サービスを徹底的に入れて、お客様がこの施設に行かなければならない理由を作ります。最初に考えることではないでしょうか。その上で会費とか募金をいただけたら、それはラッキーだと思うようにすればいい。民間企業は諦めた瞬間に倒産してしまうので、絶対に諦めないで考え抜きます。他に頼らないには地域も含まれます。もちろん地域と協力し合っているいろんなことをしていますが、基本的には地域の魅力に頼らなくても来ていただくにはどうしたらいいか、に軸足を置いています。ですから「おまけで沼津の魚がうまい」というぐらいの施設が作れたら継続ができていくのではないのでしょうか。

◆中山 それでは栗原市長、今後沼津市はどのように行動されていきますか。

### 反対先行し、難しい民意の把握 「ふるさと納税」の1項目化も

◆栗原 その前にちょっと現状を説明させてください。市議会でも議論がありますし、ローカル新聞などの報道をみていると西浦地区の全員が反対です。全員というのは地域の自治会としてで、3つほど理由を挙げています。この施設は民家と2\*以上離れていますが、声がうるさい。聞こえ



牧原 秀樹氏

るはずがないのですが。次にイノシシの被害拡大。犬や猫の施設ができるとうイノシシが麓に追い出され農地を荒らす。3番目は値段の問題などで引き取ってもらえない時に、その辺に捨てていく。地元の方が抱えている問題は誤解であれば誤解を解き、対策が必要であれば講じていくという考えで臨んでいます。それから市民全体でいうと、動物愛護のボランティアさんとか獣医さんの反応が意外に冷たいのです。まだ市民全体の応援体制ができていないというところではあります。

市民の認知度という点でも、残念ながら知らない方がほとんどではないでしょうか。行政の方はご存知のように反対の人は声が大きく、賛成の人は黙っている傾向があります。把握しづらいですね。でも政治的な決断が必要な時はしっかりと見極めて決断していく。その覚悟はしておかないと、と思っています。

それからこの施設は民間でやっていただくものであり、私どもは土地、市有地を提供するだけです。でも市有地を貸す以上、勝手におやりくださいというわけにはいかない。この施設の意義を考えれば、できるだけ協力はしなくちゃいけない。関心の高い「ふるさと納税」に動物愛護の項目を入れて寄付を集めやすくするとか、打つ手はありそうです。でも高橋さんの話を聞いていると、まだまだ足りない。経営的な手腕が必要なようです。行政ほど金儲け、人集めが苦手な組織はありませんから、これは大変だなと思いました。本日のパネル討論を通してさらなる問題点がある程度明らかになってきたような気がします。

◆中山 会場には未来センターの運営に携わる公益財団法人・動物臨床医学研究所理事長の山根先生がお見えになっています。急なふりですが、これまでの討議の感想ですとか、今後の運営プランなどをお話しいただければ。

◆山根 大いに勉強になり、力づけられています。全国の市町村を見ても、栗原市長ほど動物愛護の精神と福祉を理解してくださる首長さんはおりません。きょうは決意とも取れるお話をいただき心強く思っています。角所長さんは随所にですが、動物愛護と福祉行政の現場での苦渋を話していただき、参考になりました。ご指導のほどよろしくお祈りします。うちは公益財団法人で収益事業はやっていませんが、高橋さんがおっしゃるような他に頼らない施設にしていく気持ちがあればどこかで収益事業が上がって来るでしょう。その時にはぜひ仲間、協力者になっていただきたいと思っています。また牧原先生のお話を聞いていて政治の方

もここまで来たかという感があり、動愛法の改正を評価しています。動物愛護は経費がかかり、財政的には大変な事業です。政治の方は言葉で言ってくれますけれど行動を起こしてはくれません。環境省に行けば金がない、農林水産省に行けば殺してしまえの一点張りです。

動物は何も悪いことはしていません。悪いことをしたのはみんな人類なのです。それなのになぜ殺すんですか。これ簡単な理屈です。我々がこれから成熟した文明国家の一員になろうとすれば、しっかりとした構築をして対応していかなければなりません。

子供の情操教育をはじめ、少年少女の更生など社会貢献の幅も広がっています。沼津のセンターがオープンすると相当な脚光を浴びるのではないかと思います。ドイツのティアハイム以上の管理運営を目指します。

◆中山 パネリストの皆様から未来センターの開設、運営に向けてのポイントを指摘していただきます。

### レベルに応じボランティア活用 動物愛護を税金任せにするな

◆牧原 動物に関しては特に欧州が厳格で、日本の殺処分数を聞いたら「なんて野蛮な国だ」と思うに違いありません。たくさん外国人が訪れる2020年の東京五輪・パラリンピックがいい目標になります。江原素六という偉大な人物を育てた沼津がこのプロジェクトを推進し、日本の将来を切り開いていくことを期待しています。

◆高橋 僕の仲間である社員は動物の専門学校出身者が多く、殺処分の話が出ると涙を流す子がたくさんいます。付き合いのあるペット関係の方、お笑い芸人の方も同じです。ぜひこのプロジェクトを立ち上げ、実施していただいて悲しむ人が一人でも減ったらいいなと思います。成功を願っています。

◆角 愛護センターの所長はいつもボランティア対応に悩まされていますので、そうした立場から一言。今回の事業でもボランティアさんの協力が大きな要素になっていると思います。川崎市でもセンターの再編・整備の計画を進めている中で、もっとボランティアさんを活用していこうという考えを持っています。ボランティアさんには色々な考え方がありますし、動物を扱う技術も非常にうまい方から下手な方までさまざまです。そこで動物飼養の分野を3層構造にしてレベルに応じて

協力していただく。販売や来客対応にも導入して戦力化を図りたい。考えてみたらいかがでしょうか。

◆栗原 やるからには成功させないといけないと思っています。そのためには万全の態勢、少なくとも考えられる万全の態勢が整わないと。万が一、失敗するようなことになると、日本の動物愛護が結局税金任せになる恐れがあります。ここはぜひ

いろんな方の知恵と力の結集をお願いしたい。

◆中山 まとめの時間がなくなってしまいました。いよいよ立ち上げ、動き出すということです。皆さま方も一人一人の役割を考えながら行動していただきたいと思います。認知度を高めるために浅田さんや沼津に関わりのある著名人らが加わり、積極的に応援していただくのも一策かと思います。

### 〈略 歴〉

#### ◇パネリスト

■栗原 裕康 氏(くりはら・ひろやす) 沼津東高、慶応大経済学部卒。三光汽船勤務、衆院議員秘書を経て1991年県議、93~2000年衆院議員を2期務める。08年11月沼津市長に就任、現在2期目。趣味は読書、愛犬との散歩。

■角 洋之 氏(すみ・ひろゆき) 日本大農獣医学部卒。1985年川崎市役所入庁。保健所、夢見ヶ崎動物公園などを経て2010年4月から現職。動物の適正飼養や愛護精神の普及啓発に努め、子供たちの健全育成を視野に入れた「命の教室」を開催する。昨年度、同センターは犬の殺処分がゼロとなった。

■高橋 祐一 氏(たかはし・ゆういち) 高校卒業後、サラリーマンを経て芸人。芸人をやめた後、ホテル再建を手掛けるペリークルーズを設立。「ペットと泊まる」を再建アイデアにペット宿泊事業に進出。現在6施設を運営する。今後も店舗展開を続け、ペットと出掛けやすい、

殺処分がない日本へ貢献していく。

■牧原 秀樹 氏(まきはら・ひでき) 東京法学部、ジョージタウン大ロースクール卒。弁護士。NY州弁護士。2003年経済産業省入省。05年9月衆議院選挙(埼玉5区)で初当選。現在2期目。13年9月環境大臣政務官に就任し、犬猫の殺処分ゼロを目指すプロジェクトを立ち上げた。14年9月自民党副幹事長。

#### ◇コーディネーター

■中山 勝 氏(なかやま・まさる) 静岡県生まれ。慶応大大学院経営管理研究科修了。スルガ銀行入行後、企業経営研究所出向。主幹研究員を経て2000年より部長、08年5月から常務理事。静岡県、沼津市、三島市などの委員や日本大国際関係学部非常勤講師などを務める。

## 第20回 富士地区分科会のお知らせ

- 日 時 2015年2月27日(金) 13:30~
- 会 場 グランドホテル富士(富士市平垣本町8-1)  
TEL.0545-61-0360
- テーマ 夜景による地域創生

〈基調講演〉石井 幹子 氏(照明デザイナー)

〈パネルディスカッション〉

※パネリスト

石井 幹子 氏

小長井義正 氏(富士市長)

花井 孝 氏(静岡県地域づくりアドバイザー)

鷺見 隆秀 氏(富士工場夜景倶楽部会長)

※コーディネーター

大石 人士 氏(静岡経済研究所常務理事)



### 石井 幹子(いしい・もとこ)氏の略歴

東京芸術大学美術学部卒業。フィンランド、ドイツの照明設計事務所勤務後、石井幹子デザイン事務所設立。都市照明から建築照明、ライトパフォーマンスまで幅広い光の領域を開拓する、世界的な照明デザイナー。代表作品は国内では東京タワー、レインボーブリッジ、函館市や倉敷市の景観照明、世界遺産の白川郷合掌集落、創エネ・あかりパーク、歌舞伎座など。静岡県内では日本初となる砂浜のライトアップ「熱海サンビーチ」をプロデュースした。海外作品では、<日仏交流150周年記念プロジェクト>パリ・ラ・セーヌ、ブダペスト・エリザベト橋ライトアップ、<日独交流150周年記念イベント>ベルリン・平和の光のメッセージほか。国内外での受賞多数。